馬洗い

延命水も干天が続くといよいよ細くなり、水汲みを攻撃する義家軍の矢も激しくなった。軍略に秀れていた貞任は、敵の見張りからよく見える山の頂上に馬を曳き、馬の背に手桶で白米をかけ、馬を洗うさまに見せかけた。義家軍の見張りから、八乙山の頂上には馬を洗うほどの水があると幕林の本陣へ報告された。水断(みずたち)攻の戦法が中止され、安倍貞任の城は命を永らえることができたと伝えられている。